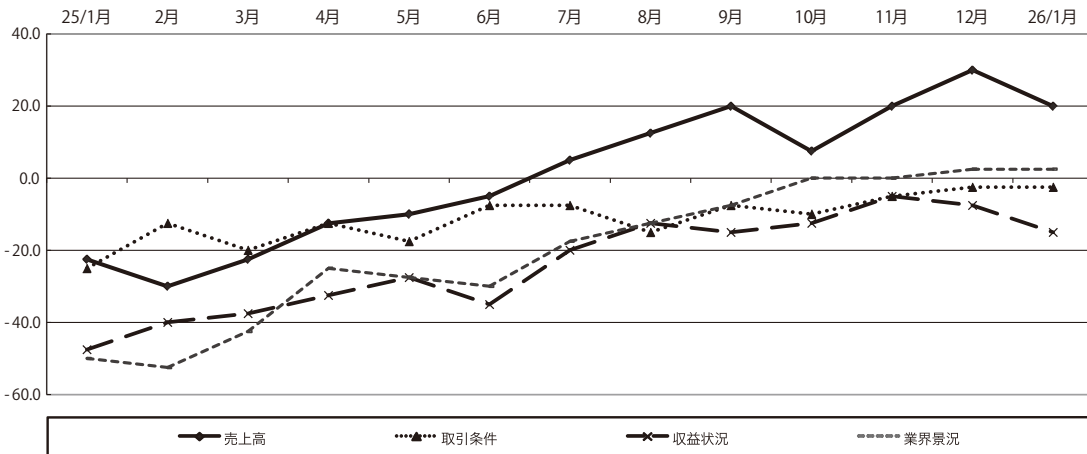


平成26年1月度 情報連絡員報告

全業種DI値
業界の景気動向(前年同月比)



	25/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	26/1月	増減
売上高	-22.5	-30.0	-22.5	-12.5	-10.0	-5.0	-5.0	-12.5	20.0	7.5	20.0	30.0	20.0	-10.0
取引条件	-25.0	-12.5	-20.0	-12.5	-17.5	-7.5	-7.5	-15.0	-7.5	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	0.0
収益状況	-47.5	-40.0	-37.5	-32.5	-27.5	-35.0	-20.0	-12.5	-15.0	-12.5	-5.0	-7.5	-15.0	-7.5
業界景況	-50.0	-52.5	-42.5	-25.0	-27.5	-30.0	-17.5	-12.5	-7.5	0.0	0.0	2.5	2.5	0.0

概況

平成26年1月の前年同月比DI値は前月に比べ、「売上高」が10.0ポイント、「収益状況」が7.5ポイント悪化する結果となったが、「売上高」についてはプラス値を維持し、改善傾向の状況である。

多くの業種で、消費税増税前の駆け込み需要による売上高の増加が見られるようになってきているが、原材料や燃料の高騰により収益に結びついていない状況である。

消費税増税の影響か全般的に回復基調(古紙)

製造業

【古紙】少子高齢化に伴う人口減少や長引く消費低迷により紙の消費量が減少しており、組合員の仕入状況に地域格差があるものの、消費税増税の影響が全般的に年末年始から回復基調の明るさが見受けられる。

【萬古焼】燃料(ブタンガス)の高騰に加え、国内原材料の大幅な値上げが予想されるため、商品単価の値上げの検討もやむを得ない状況となってきている。

【電気機器(鳥羽)】12月後半より少しずつ受注件数が増えつつある。昨年の同時期と比較しても10%前後アップしている。今年はこのまま受注量が増えていくことを期待している。

【輸送機器(鈴鹿)】引き続き軽自動車の生産ラインはかなり繁忙のようである。春以降が商戦シーズンである大型二輪の生産も佳境に入り稼働率は上がっているが、諸物価の高騰、人件費増などにより採算は悪化している。



非製造業

【青果】新年を迎え安定を期待していたが、生産地域の天候不良によりほとんどの商品が高値を推移した。冬場の果物であるミカンも多くの在庫が目についた。

【石油】1月期の燃料油の販売数量は全体として前年対比96%前後であり、特に灯油がかなり減少した。原因としては、太陽光発電やオール電化の普及による影響が大きいと考えられる。自動車燃料油が値上がりしているため、組合員は灯油の販売促進に力を入れている。

【旅館】年末年始にかけて曜日の並びがよかったことと好天が続いたことにより、観光地はどこも活況を呈していたようで、宿泊施設も10日間程度は満員に近い入り込み状況であった。しかし、次週の3連休は日帰り客が多く、宿泊客の入り込みは低調であった。今後のポスト遷宮対策や三重県観光キャンペーンに期待したい。

【総合工事業】平成25年度発注工事は件数、金額ともに微増しているが、資材単価や労務費が上昇しており、利益率の改善には至っていない。

【水道工事業(津)】業務量が増加しており、昨年末ごろから工事中の交通整理ガードマンの確保が難しくなっている。

【トラック運輸業】輸送貨物量は増加傾向で運賃水準もスポット輸送(単発)についてはやや売上増となっているが、燃料価格が高いため収益に結びつかない状況である。